

「寒桜」

（今日は一段と寒いな・・・。）

少し身震いをしながら思い出のある玄関の引き戸をノックする。

「お待ちしておりましたよ。」と、利用者さんが顔を出す。

以前、同居されていたお姉さまが介護生活をされていた時に、

お世話になった妹さまのお宅に、また訪れることになった。

昔と変わらない家のたたずまい、屋内の食卓やテーブルが妙に懐かしく思える。

変わったことといえば、妹さまが利用者さんになったことだろうか。

「私も随分と老け込んで、体がいうことを効かなくなりました。」昔と変わらない笑顔で、そう僕に話しかけた横顔が、少し寂しそうに感じた。

「今日は来てくれてありがとう。これからもお世話になります。」昔と変わらず、握手を交わしながら思い出の玄関を出る。

ふと足を止め、庭先を見上げれば、何年か前と同じように、寒桜が綺麗に咲いていた。

（これからもよろしく・・・。）

（2017年3月）

